

北海道エコイベント指針

ーイベントにおける環境配慮のススメー

北海道

目 次

1	策定の趣旨	1
2	この指針の対象となるイベント	1
3	エコイベント実施の基本的な考え方	1
4	エコイベントの取組内容	
(1)	環境配慮に向けた事前準備	3
(2)	開催場所の決定	5
(3)	広報・案内	6
(4)	会場設営・開催準備	8
(5)	交通・運搬手段の利用	10
(6)	イベントの実施段階	11
(7)	撤収・原状回復	13
(8)	開催後のまとめ	14
5	エコチェックシートの活用	15
(1)	イベントの企画段階	15
(2)	イベントの実施段階	15
(3)	イベントの終了後	15
6	指針及びエコチェックシートの取扱い	
(1)	道が実施するイベント	16
(2)	道が後援するイベント	16
(3)	その他民間団体等が実施するイベント	16
7	エコイベント実施状況の把握	16

別紙 環境に配慮したイベントを実施するためのチェックシート (エコチェックシート)

- 参考資料 1 道内イベントにおける環境配慮事例
- 参考資料 2 「環境配慮に関する基本方針」の作成例
- 参考資料 3 エコイベントの実施フロー及び関連事務
- 参考資料 4 関連情報

1 策定の趣旨

地球温暖化や廃棄物問題など今日の環境問題は、私たちの日常生活や事業活動による環境への負荷が大きな原因の一つとなっています。地域での交流や「にぎわいの創出、多くの人々を対象としたPRや普及啓発など、さまざまな目的で開催されるイベントも、エネルギーや資源の消費、廃棄物の発生などにより環境に負荷を与える側面を有していますので、イベントの趣旨や目的を大切にしながら、できるだけ環境に配慮して開催することが必要となっています。（このように、環境に配慮して実施するイベントを、この指針では「エコイベント」と呼ぶこととします。）

また、エコイベントの開催を通じて、道民の環境意識の向上や取組の促進につなげていくことも重要です。

この北海道エコイベント指針は、北海道環境基本計画に沿った、環境に配慮した地域づくりに向けて、イベントの開催に伴う環境負荷の低減を図るとともに、エコイベントの開催を通じて北海道環境宣言で示した環境行動を促進していくために策定するものです。

2 指針の対象となるイベント

この指針で対象とするイベントは、道内で開催され、不特定多数の参加者があり、期間や場所を限定して開催する式典・行事・催し等（シンポジウム、フォーラム、コンサート、スポーツ試合、講演会、研修会、展覧会、大会、祭りなど）とします。

道が実施するイベント及び道が後援するイベントについて、この指針に沿ったイベントの開催を進め、環境に与える負荷の継続的な低減に取り組みます。さらに、その他民間団体等が実施するイベントについて、この指針の趣旨や内容を広く道民の皆さんに呼びかけ、環境に配慮しながら開催されるようになることをめざします。

3 エコイベント実施の基本的な考え方

イベントの開催に当たっては、会場設営などの準備段階から開催後の撤収・原状回復段階まで、さまざまな場面でエネルギーや資源を使用・消費するとともに、二酸化炭素の排出、廃棄物の発生など環境への負荷が発生します（参考：図1 イベントの開催に伴うインプット・アウトプット例）。そのため、イベントの開催に当たっては、企画段階から環境への配慮を心がけるとともに、イベントの目的や規模などに応じて、環境配慮の取組を少しでも多く、できるところから実践するように努めることが大切です。

この指針では、イベントの開催に当たって主催者が取り組むべき環境配慮の項目（以下、「環境配慮項目」という。）を、イベントの企画から実施、開催後までの次の(1)から(8)の各段階ごとに提示しています。

- (1) 環境配慮に向けた事前準備
- (2) 開催場所の決定
- (3) 広報・案内
- (4) 会場設営・開催準備
- (5) 交通・運搬手段の利用
- (6) イベントの実施段階
- (7) 撤収・原状回復
- (8) 開催後のまとめ

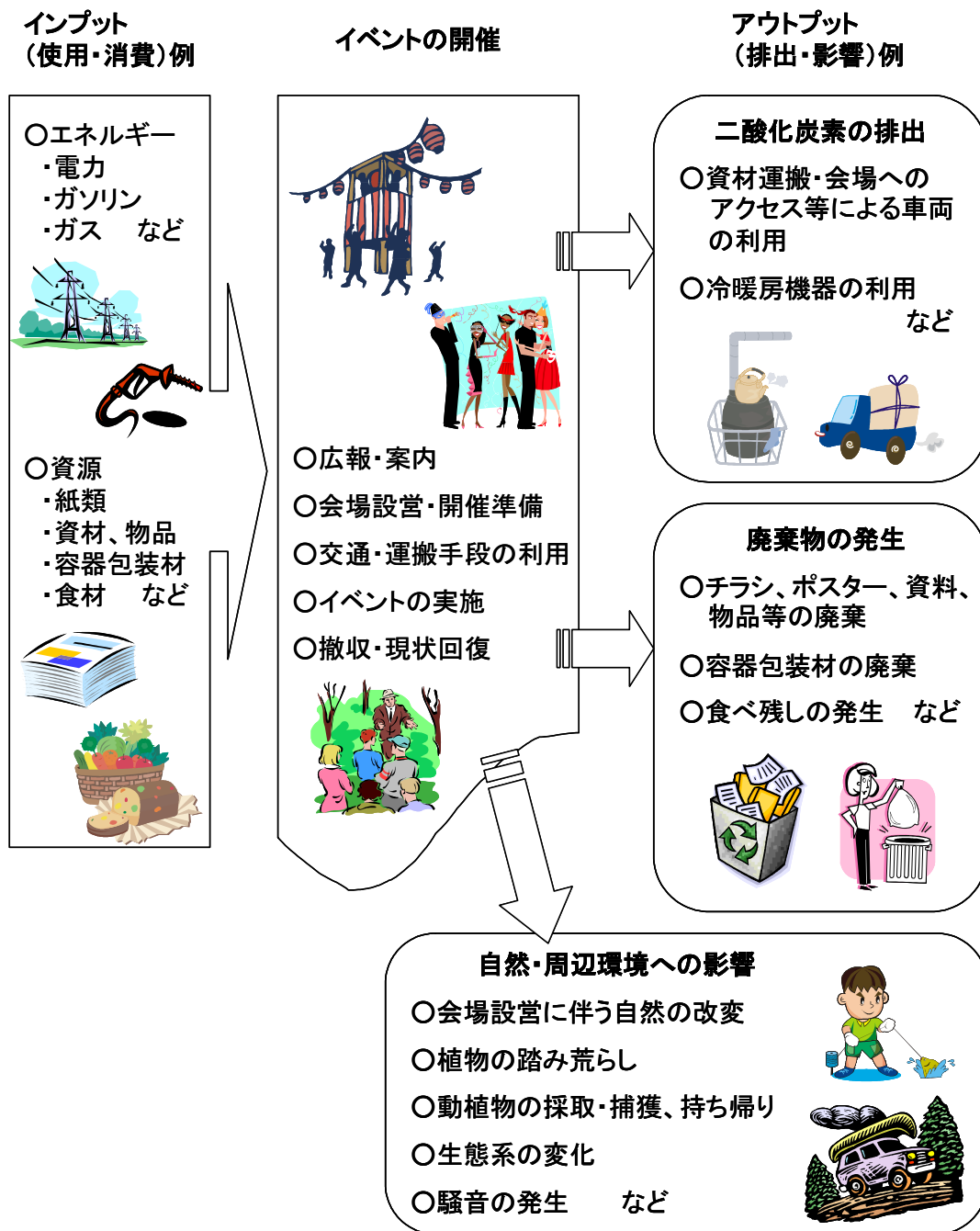


図1 イベントの開催に伴うインプット・アウトプット例

4 エコイベントの取組内容

(1) 環境配慮に向けた事前準備

イベントにおける環境への配慮は、イベントの企画から運営、開催後まで各段階で必要となるため、環境配慮のための体制を整えるなど事前準備をすることにより、効率的・効果的に取組を進めることが必要です。

<環境配慮項目>

① 環境配慮に関する共通認識を持てるよう、エコチェックシートを活用して環境配慮に取り組むことをイベント担当者に周知します。

エコイベントとして実施するためには、イベントに係る担当者一人ひとりが、環境配慮に取り組む意識を持ち、取組の内容を理解していることが必要です。

② 前回のイベント（又は類似のイベント）で作成したエコチェックシートを参照し、反省点の改善に努めます。

③ 必要に応じて、環境配慮の責任者を決めます。

イベントの規模が大きく準備事項が多いほど、またイベントに係る担当者が増えるほど、各担当者に指示を出す責任者がいなければ、「誤った取組」や「やり忘れ」の可能性が高まります。

【責任者の役割の例】

- ・各イベント担当者へのエコチェックシートや環境配慮内容の周知
- ・各イベント担当者への環境配慮の取組指示や担当割り
- ・環境配慮の取組のスケジュール管理 など

④ 必要に応じて、環境配慮の知見に詳しい、地域で活動している環境保全団体と連携します。

イベントを開催するにあたり環境保全団体と連携することにより、ごみの分別の徹底や自然環境保護などの環境配慮活動を効果的にすすめることができます。



参考資料1(道内イベントにおける環境配慮事例:事例2)参照



参考資料4(関連情報:環境保全団体情報)参照

- ⑤ イベントの企画・運営等を外部委託する場合や、展示会等で企業・団体等に出展やブースの設置を募る場合には、環境への配慮が適切に行われるよう指示します。

【特に大規模なイベント（参加者が累計1万人を超えるなど）の場合】

- ⑥ 環境配慮のための組織を整えます。

- ・ 特に大規模なイベントの場合、イベント関係者数も多く、取組内容も多岐にわたることが多いため、組織的に環境配慮に取り組む必要があります。
- ・ 環境配慮のための組織としては、環境配慮の取組内容に関する企画や実施結果に係るデータ収集・取りまとめ等を行う環境対策委員会などをイベント実行委員会等の中に設けるなどが考えられます。

- ⑦ 環境配慮に関する基本方針を決定し、イベント運営の開催要領等に掲載します。

特に大規模なイベントの場合、イベント関係者数も多く、取組内容も多岐にわたることが多いため、基本方針を開催要領等に明記することにより、イベント関係者一人ひとりが共通認識を持って環境配慮に取り組む必要があります。



参考資料2（「環境配慮に関する基本方針」の作成例）参照

【参考】 エコアクション21（環境省が策定したガイドラインに基づき、事業者が「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための認証・登録制度）をイベントに活用することもできます。



参考資料4（関連情報：エコアクション21情報）参照

（２）開催場所の決定

イベントは、住宅地の公園などの身近な場所から自然公園等まで、さまざまな場所で開催されています。開催場所の決定に当たっては、自然環境や周辺の生活環境の保全に配慮しましょう。

<環境配慮項目>

① 既存の施設・設備を最大限活用し、新たな施設・設備の設置は必要最小限とします。

② イベントの開催にあたっては、オンラインによる開催を検討し、環境負荷を最小限に抑え、脱炭素化に貢献します。

③ 新たに施設・設備を設置する場合、できるだけ土地や自然を改変しないですむ場所を選びます。

④ 公共交通機関の利用に配慮し、交通渋滞、騒音等による周辺地域への影響ができるだけ少ない地域とします。

(3) 広報・案内

イベントへより多くの方々に参加していただくためには、広く広報・案内することが必要ですが、チラシの作成などにより多くの資源も消費しています。インターネット等の積極的な活用などにより、広報・案内に伴う環境への負荷の低減に配慮しましょう。

また、イベントの開催に当たっては、環境に配慮した取組を行っていることを事前の広報などで積極的に伝え、参加者に向けて、環境に配慮した行動の実践を呼びかけましょう。

<環境配慮項目>

① インターネットやメールを活用するなど、チラシ等の紙媒体による広報・案内をできるだけ減らします。

② チラシやポスター等の作成部数は、必要量を検討して決定します。

③ チラシやポスター等の印刷に当たっては、紙やインキなどは環境に配慮したものを使用します。

【環境に配慮した紙及びマークの例】

- ・再生紙
- ・非木材紙
- ・間伐材紙
- ・FSC森林認証紙
- ・PEFC森林認証紙



再生紙使用マーク



エコマーク



グリーンマーク



非木材グリーンマーク



間伐材マーク



道産間伐材マーク



FSC森林認証のマーク



PEFC森林認証のマーク

【環境に配慮したインキ及びマークの例】

- ・ソイインキ
- ・ノンVOCインキ
- ・UVインキ



ソイインキのマーク

【環境に配慮した印刷及びマークの例】

- ・ 水なし印刷
- ・ フレキシソ印刷



水なし印刷のマーク

 参考資料4(関連情報:印刷関係情報)参照

④ イベントの開催に当たり、環境に配慮した取組を行っていることをPRし、参加者に向けて、環境に配慮した行動の実践を呼びかけます。

- ・ 環境に配慮した取組を行いながら開催していることをPRすることは、イベント関係者だけでなく、道民の環境意識の向上や普及啓発にもつながります。

【PRの例】

- ・ 電力の一部は太陽光、風力発電によりまかなっています。
- ・ 会場内の暖房設定温度は20℃に設定しています。
- ・ 道産食材及び道産間伐材を使用しています。 など
- ・ イベントの参加者に向けた環境配慮行動の呼びかけを行うことにより、イベントにおける環境配慮の取組の実効性を高めることができます。

【呼びかけの例】

- ・ 会場までのアクセスには公共交通機関をご利用ください。
- ・ マイバッグ、マイカップ、マイはしの持参にご協力ください。
- ・ ごみの〇種類分別にご協力ください。 など

(4) 会場設営・開催準備

会場設営や資材調達、資料作成など、イベントの開催準備には、多くの資源やエネルギーを使用します。また、イベントには、「華やかさ」や、「にぎわい」がつきものですが、このことが、資源の浪費や環境への負荷の増大につながりかねません。できるだけ既存の設備や資材を活用し、新たに作成するものは必要最小限にするなど、会場の設営や準備に伴う環境への負荷の低減に配慮しましょう。

<環境配慮項目>

① 既存の設備や資材を最大限活用し、新たな設備等の設置や資材の作成は必要最小限とします。

② イベントの開催にあたっては、オンラインによる開催を検討し、環境負荷を最小限に抑え、脱炭素化に貢献します。

③ 再生可能エネルギーなど環境負荷の少ないエネルギーを利用して、イベントが実施できるよう努めます。

- 【例】 ・ 太陽光、風力、バイオガス等により発電した電力の利用
・ 雪氷冷熱エネルギー、温泉・温排水等使用設備・機器の使用
・ バイオエタノール・バイオディーゼル燃料・木質ペレット等のエコ燃料利用設備・機器の使用 など

④ 物品等の購入に当たっては、エコマークなどの環境ラベル認定商品やリサイクル製品、「北海道グリーン購入基本方針」に基づく環境物品等を優先使用するなど、環境に配慮した製品のほか、輸送エネルギーの少ない地元で生産された商品を購入します。

【環境に配慮した製品マーク例】



エコマーク



エコリーフ
環境ラベル



グリーンマーク



バイオマスマーク



牛乳パック
再利用マーク



PETボトルリサイクル
推奨マーク



北海道認定
リサイクル製品



道産間伐材マーク



FSC認証制度



PEFC森林認証プログラム



非木材グリーンマーク



間伐材マーク



MSC(海洋管理協議会)
漁業認証



北のクリーン農産物
(YES!clean)表示制度



道産食品
登録制度



道産食品
独自認証制度



参考資料1(関連情報:環境に配慮した製品情報)参照

⑤ 会場で使用するパンフレットや資料については、環境に配慮して作成します。(「(3)広報・案内」の配慮項目参照)

⑥ 発生するごみの種類を前もって検討し、会場内に、リサイクル可能な品目ごとにリサイクルボックスを設置するほか、市町村等の収集ルールに応じて分別ごみ箱を設置するか、ごみの持ち帰りを呼びかけます。

ごみの分別を徹底するための方法として、ごみの分類方法を目立つところに掲示したり、ごみの分別についての説明や案内を行うスタッフをごみ箱周辺に配置するなど考えられます。



参考資料1(道内イベントにおける環境配慮事例:事例2)参照

(5) 交通・運搬手段の利用

イベントには、多くの人々がさまざまな交通手段を用いて集まります。乗用車は、一人を運ぶのに消費するエネルギーが電車やバスに比べて多いほか、交通渋滞の原因にもなります。イベントを開催する際には、公共交通機関の最大限の活用や次世代自動車の利用、エコアンドセーフティドライブの実践を呼びかけるなど、交通による環境への負荷の低減に配慮しましょう。

<環境配慮項目>

- ① イベントの広報・案内を行う際に、できるだけ公共交通機関での来場を呼びかけます。

公共交通機関での来場を呼びかける際には、関連情報も併せて提供すると効果的です。

【関連情報の例】

- ・公共交通機関でのアクセス方法や時刻表などの情報
- ・地域の公共交通機関を自由に使えるチケット等の情報 など

- ② 公共交通機関の利用が困難な場合や交通渋滞が予想される場合には、交通規制を行い、パーク・アンド・ライド環境の整備やシャトルバスの運行など、効率的な交通手段を準備します。

会場近郊まで自動車で行き、駐車場に駐車し、公共交通機関やシャトルバスに乗り換えることを「パーク・アンド・ライド」といいます。渋滞回避や自動車からの排気ガス対策などに有効です。

- ③ イベントで使用するシャトルバス、資材運搬用車両等は、次世代自動車などできるだけ環境負荷の少ない車両を利用します。

- ・低公害車には、天然ガス自動車、電気自動車、ハイブリッド自動車、メタノール自動車、低燃費かつ低排出ガス認定車、LPG自動車、燃料電池自動車など多種多様なものがあります。
- ・近距離の資材運搬であれば、リヤカーや台車なども利用しましょう。

 参考資料4(関連情報:低公害車情報)参照

- ④ イベントに関係する車両に、アイドリングストップなどエコアンドセーフティドライブへの協力を要請します。

 参考資料4(関連情報:交通の省エネルギー情報)参照

(6) イベントの実施段階

イベント会場では、冷暖房や照明、音響等機器の使用などにより、エネルギーを消費します。また、多くの人々が集まるため、多量の廃棄物が発生するおそれがあります。会場の適切な温度管理やナチュラルビズスタイルの推進など省エネルギーの取組や3Rを進めるとともに、来場者にも環境配慮への協力を呼びかけましょう。

<環境配慮項目>

① 冷暖房の温度設定は、原則として冷房28℃、暖房20℃とします。

- ・ 外気温度等を考慮した空調の間欠運転や外気の導入も適切な温度管理に有効です
- ・ 会場の空調を早い時間から無駄に稼働しないように注意しましょう。

② 過度な照明や音響は避け、機器スイッチをこまめにON-OFFするなど省エネルギーに努めます。

- 【例】
- ・ 使用していない部屋の照明や機器等の電源を切る。
 - ・ 適切な照度を確保しつつ外光に応じて部分的に照明を消灯する。 など

③ 会場で飲食物や物品を提供・販売する場合には、マイボトルやマイバッグの持参を呼びかけることや、できる限り使い捨て容器を使用せず、繰り返し使える容器を使用します。

- 【例】
- ・ 何度も繰り返し洗って使用できるリユース食器を使用する。
 参考資料1(道内イベントにおける環境配慮事例:事例2 参考)参照
 参考資料4(関連情報:リユース食器情報)参照
 - ・ 砂糖、ミルク、スプーンなどは必要な方にだけ配布する。
 - ・ 商品をばら売りや量り売りすることにより、トレーやパックなどの包装材を削減する。
 - ・ 商品の包装は、簡易包装に努める。
 - ・ マイバッグ持参の呼びかけ、レジ袋の使用量を削減する。 など

- ④ リサイクルやごみの分別の徹底のほか、マイバッグやマイボトルの活用、食品ロスの削減など、環境配慮の内容を来場者にわかりやすく示し、協力を求めます。

【 例 】 ごみの分別、ごみの持ち帰り、会場冷暖房の控えめ設定、駐車場でのアイドリングストップ、自然公園内等でのマナーや注意事項等についての説明や協力の呼びかけ など

- ⑤ 植樹や魚の放流などを行う場合は、生態系への影響に配慮します。

【 例 】 本来地域に生息していない外来種など、生態系に悪影響を及ぼすおそれのあるものは扱わない など

(7) 撤収・原状回復

イベント終了時には、会場設営に使用した資材や来場者に提供した物品・資料など、多量の廃棄物が発生するおそれがあります。これらの資材・物品等はできるだけ再利用を図り、再利用できないものは、再生利用と適正な処理を進めましょう。

また、イベントの開催により、自然環境や周辺の生活環境に悪影響を及ぼしているおそれもありますので、速やかに状況をチェックし、回復を図りましょう。

<環境配慮項目>

① 会場内や会場周辺地域の清掃を行います。

② ごみは、市町村等の収集ルールに応じて、リサイクル可能なものは分別し、適正に処理します。

③ イベントに使用した資材や物品等はできるだけ再利用を図ります。再利用できない素材等にあっては、再生プラスチックや、再生紙、バイオ素材など地球に優しいものを選択します。

- 【 例 】 ・ イベント会場の設営に使用したポスター、パネル、横断幕などは持ち帰って再利用を図る。
- ・ 残った資料、啓発資材等は持ち帰って再利用を図る。
 - ・ 講師が参考資料で準備した印刷物等は、講師に返送する。
 - ・ 厨芥や食べ残しは堆肥化、肥料化するなどリサイクルする。 など

④ イベント終了後、会場及び周辺の環境の状況についてチェックし、問題があれば速やかに回復を図ります。

（８）開催後のまとめ

「エコイベント」の取組を継続し、広げていくためには、開催したイベントにおける環境配慮について、可能な限り実施状況（資源・エネルギー使用量や廃棄物発生量など）を定量的に把握するとともに、計画どおり実施できなかった項目について見直しを行い、次にイベントを開催するときにその結果を活かすことが大切です。少しづつでも、「実施できた項目」を増やしていけるように取組を進めましょう。

<環境配慮項目>

- ① 実施状況（資源・エネルギー使用量や廃棄物発生量など）をできるだけ定量的に把握します。

【 例 】 廃棄物の発生量、水の使用量、電力使用量、ガス使用量、灯油使用量、ガソリン等燃料使用量、交通（イベント関係者・来場者）に係る二酸化炭素排出量 など

- ② 環境配慮の取組結果を踏まえ、改善点や今後実施することが望ましい項目などを検討し、今後の開催に役立てます。

 参考資料 1（道内イベントにおける環境配慮事例）参照

5 エコチェックシートの活用

イベントの開催に当たっては、この指針で定める「環境に配慮したイベントを実施するためのチェックシート」（以下、「エコチェックシート」という。）の環境配慮項目について点検し、次に掲げる目標の達成をめざすことにより、環境に配慮したイベントとなるよう努めましょう。

【目標】

- ◆ 一つでも多くの項目に取り組むように努め、該当する全ての項目を実行することをめざす。
- ◆ できなかった項目について、反省点や今後の留意点を記録し、次回のイベントでの実施をめざす。

（１）イベントの企画段階

主催者は、イベントを企画する段階で、どのような取組を行うのか計画を立て、エコチェックシートの「計画欄」にチェックをします。また、エコチェックシートに記載されている項目以外の取組を実施する場合には、「その他」欄に取組内容を記載します。

計画欄のチェック後、「取組率」を算出し、環境配慮の取組状況を把握します。

【参考】「道民・事業者のための環境行動の手引き」（北海道環境宣言附属資料）では、日常生活や事業活動を環境に配慮したものに転換していくための「行動目標」や「行動メニュー」などを提示していますので、環境配慮の取組内容を検討する際の参考としてください。



参考資料4（関連情報：環境行動情報）参照

（２）イベントの実施段階

主催者は、企画段階でチェックしたエコチェックシートに沿って、エコイベントの実施に努めます。

（３）イベントの終了後

主催者は、実施結果の点検を行い、エコチェックシートの「結果」欄及び「反省点及び今後の留意点等」欄を記入し、「取組率」を算出してエコチェックシートを完成させます。

主催者は、環境配慮の取組結果を踏まえ、改善点や今後実施することが望ましい項目を検討し、今後のエコイベントの実施に役立てます。「取組率」を少しずつでも高めていけるよう、環境配慮の取組を進めましょう。

6 指針及びエコチェックシートの取扱い

(1) 道が実施するイベント

道が主催又は共催するイベント（実行委員会等に道が参画するものを含む）については、この指針に沿ってエコチェックシートを活用することにより率先して環境配慮に取り組みます。

(2) 道が後援するイベント

道が後援するイベントについては、イベントを後援する課の長は、主催者に対して、この指針に沿って企画段階で作成するエコチェックシートを申請書に添付すること、及びイベント終了時に結果等を記載したエコチェックシートを提出することを要請します。

(3) その他民間団体等が実施するイベント

民間団体や市町村等が開催するイベントなど、(1)及び(2)に該当しないイベントについては、主催者は、この指針に沿ってエコチェックシートを活用することにより環境配慮に努めます。

道は、ホームページ等を活用して、指針に沿った環境配慮の取組の普及啓発に努めます。



参考資料 3（エコイベントの実施フロー及び関連事務）参照

7 エコイベント実施状況の把握

環境生活部環境保全局環境政策課長は、道が主催、共催、又は後援するイベントについて、環境配慮の実施状況を毎年度調査し、結果や優良な取組事例を取りまとめて公表します。

（平成 20 年 10 月 6 日策定）

（令和 5 年 4 月 1 日一部改正）